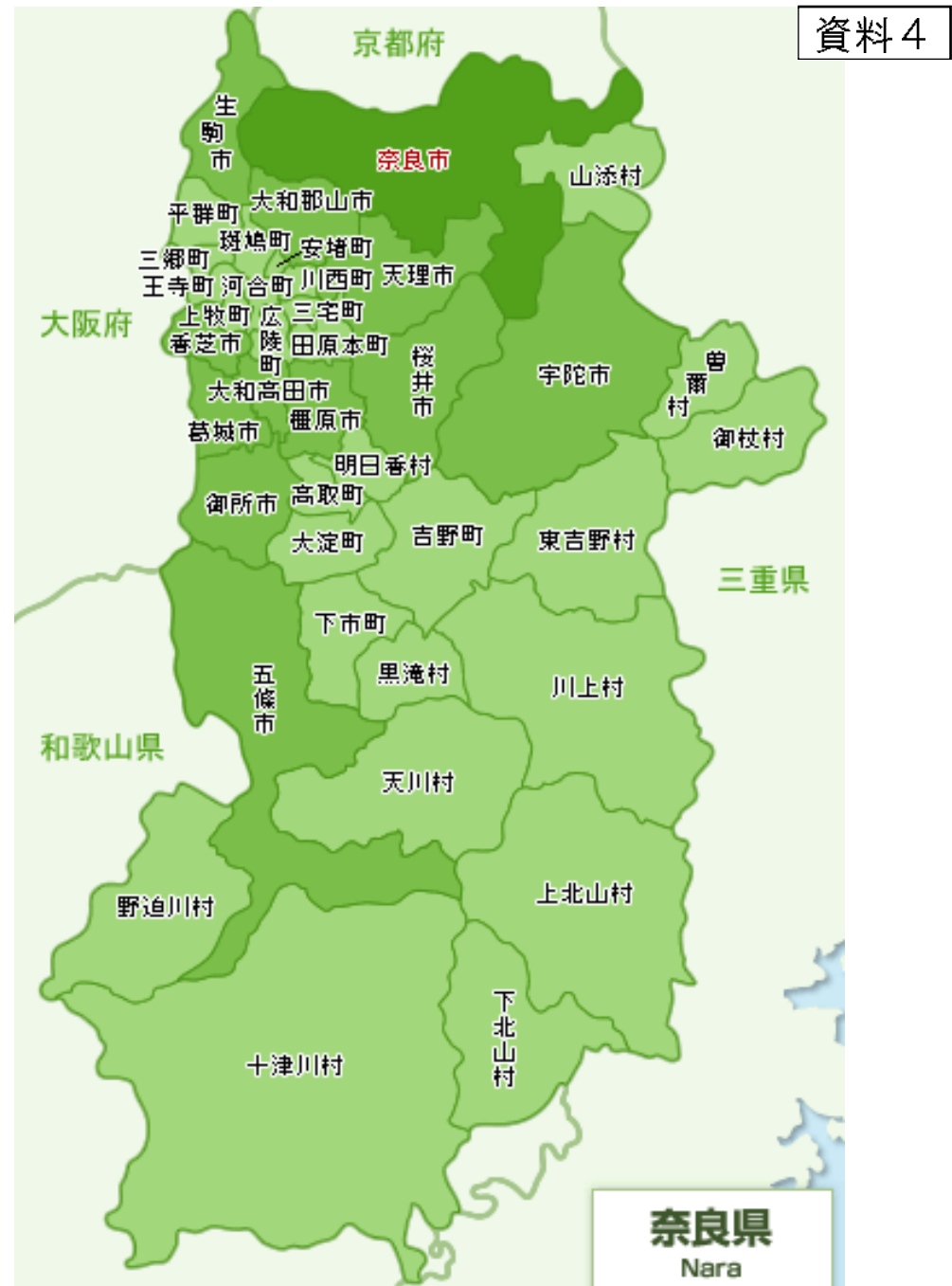
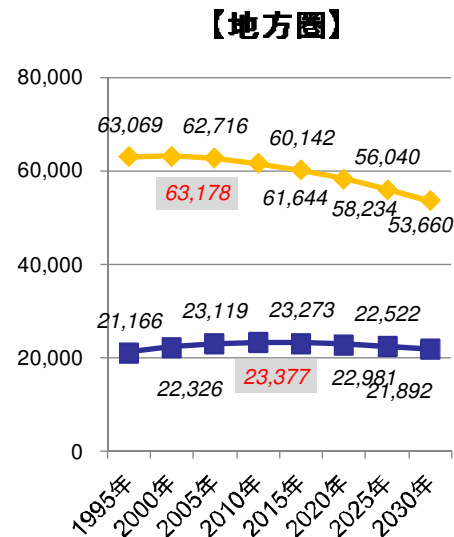
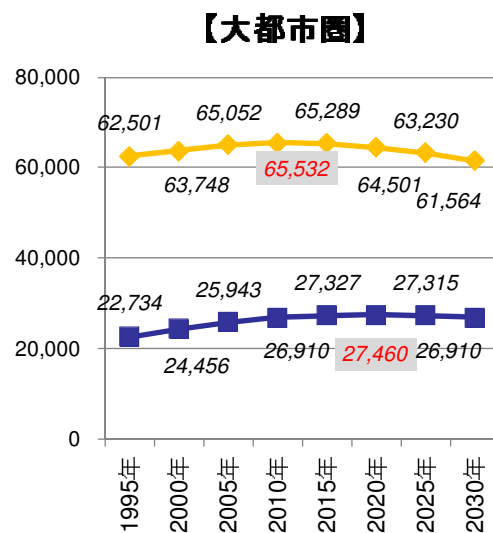
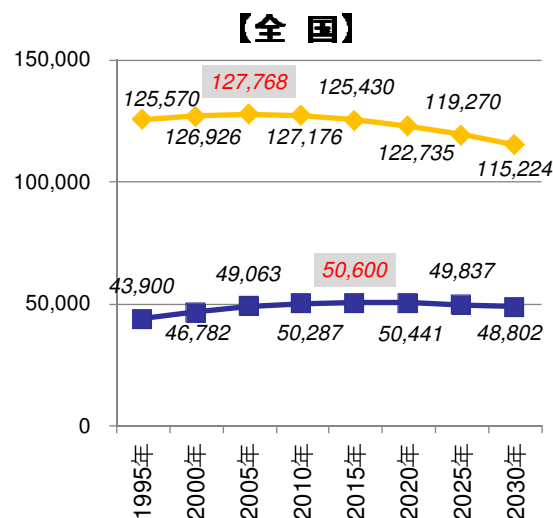


奈良県の住宅・住生活を取り巻く状況



人口・世帯の推移と将来推計について

- 我が国の人口は2005年以降、世帯数は2015年以降、減少を続けていく見通し
- 奈良県の人口・世帯数の推移は地方圏の特徴を示しており、今後、人口減少等は加速する見込み



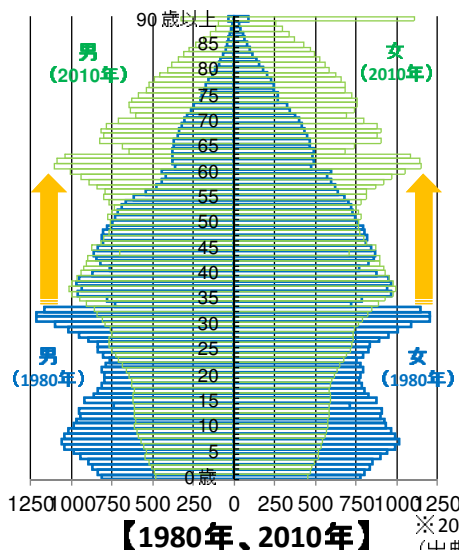
【凡例】 ●-人口、■-世帯
■ピーク

大都市圏: 住生活基本法施行令で定める都道府県（茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県及び奈良県）

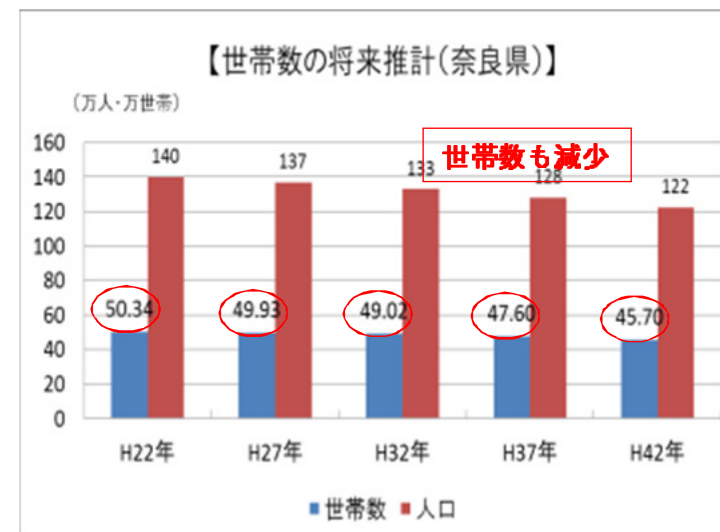
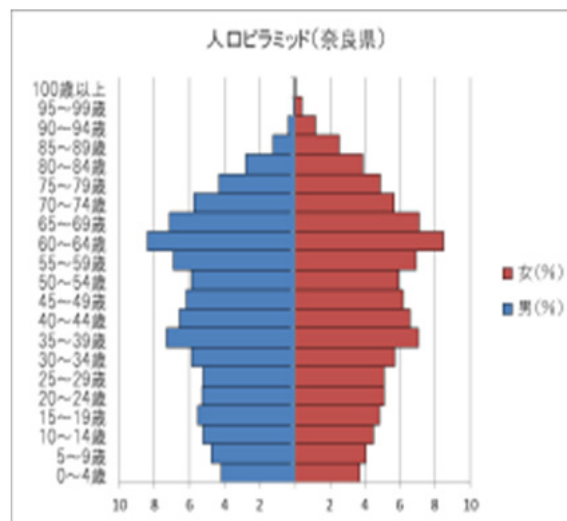
地方圏: 大都市圏以外の道府県

(出典)
実績値: 国勢調査[総務省] (2004年)
推計値: 日本の将来推計人口 (2006年12月推計)、
日本の世帯数の将来推計(全国推計) (2008年3月推計)
[国立社会保障・人口問題研究所]

図1: 人口ピラミッドの推移(単位: 千人)



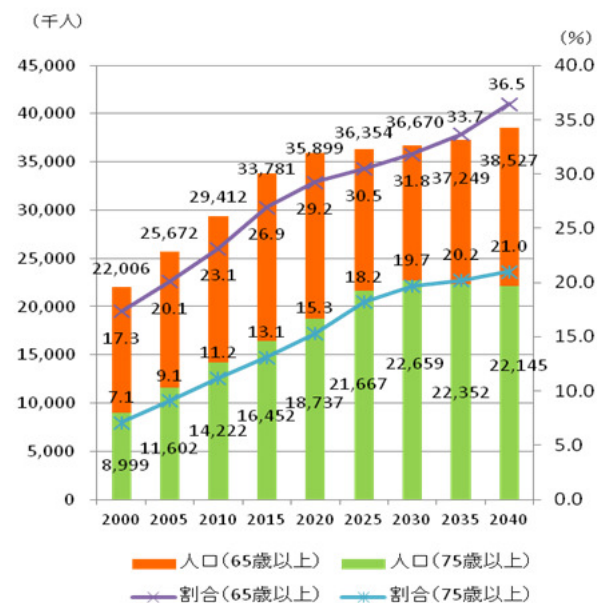
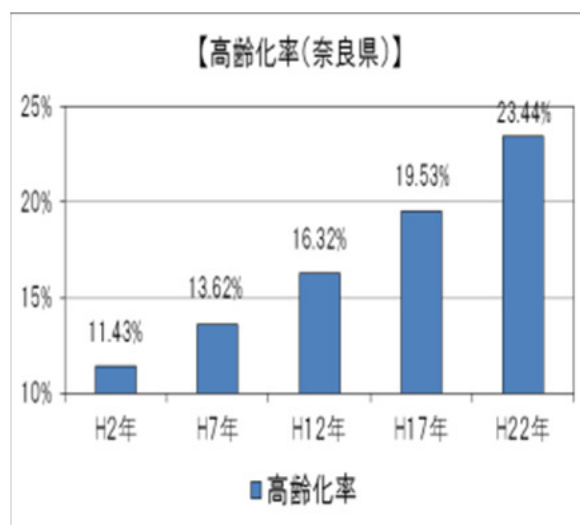
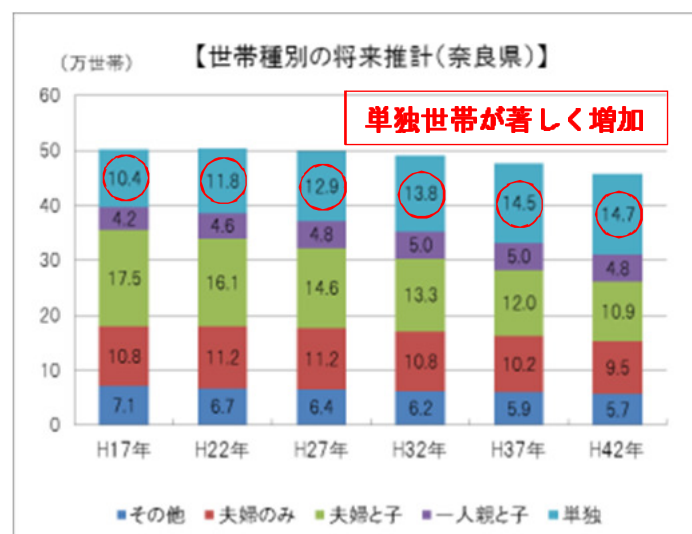
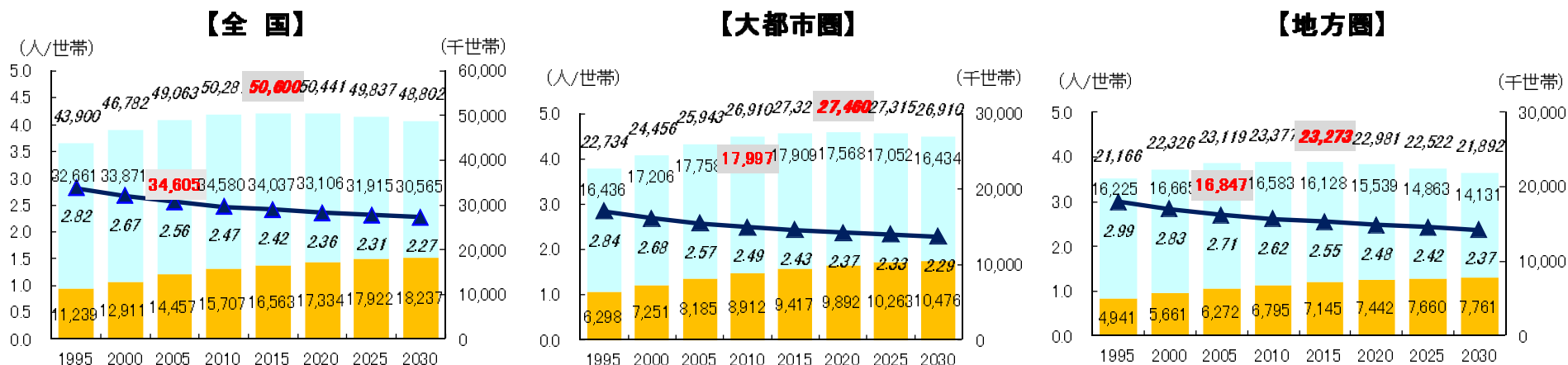
※2010年は推計値。
(出典) 総務省、国立社会保障・人口問題研究所



世帯構成の変化と高齢化について

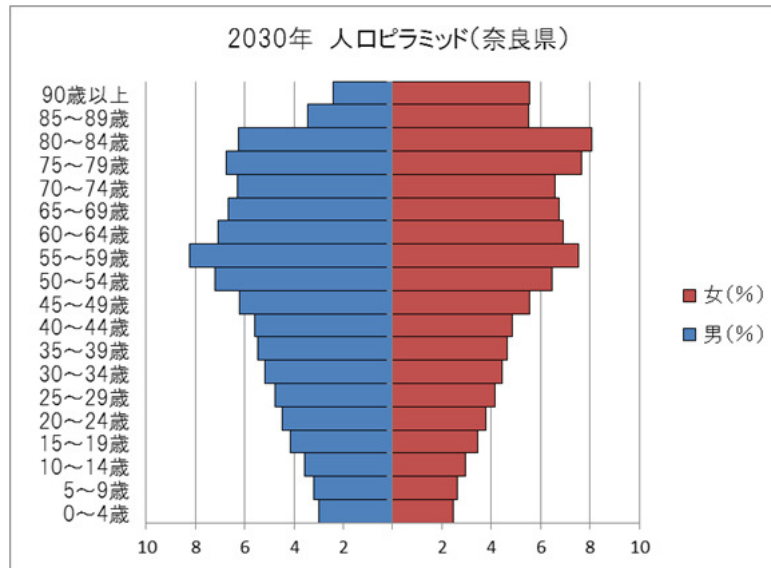
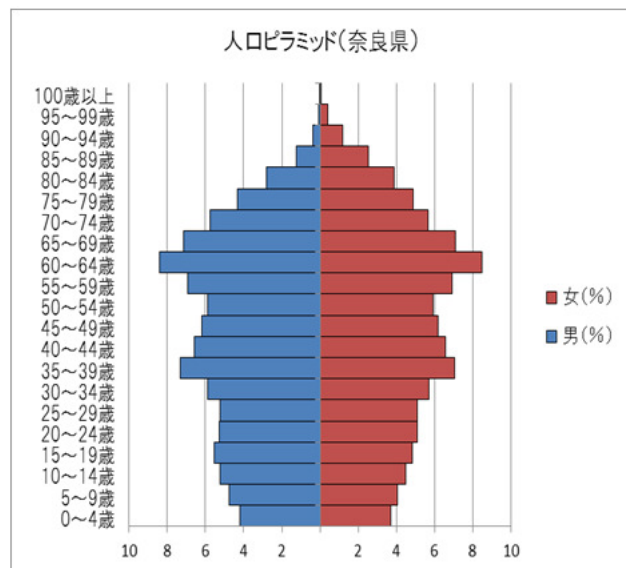
○我が国の世帯構成は、今後、核家族化や少子化の影響により単身世帯数が増加。高齢者人口も2040年に向けて加速度的に増加する見込み

○奈良県も今後、同様の傾向で推移していくが、その進行は全国平均に比して顕著

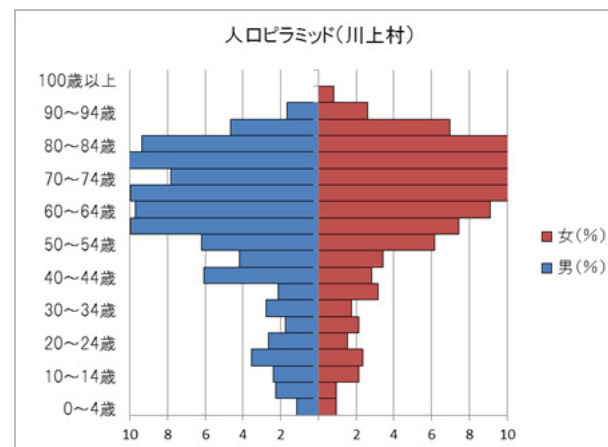
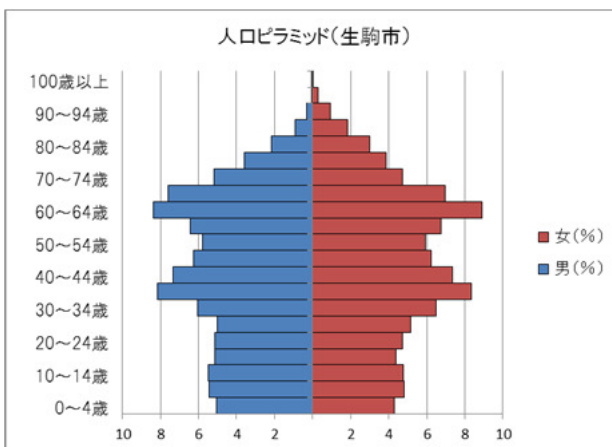
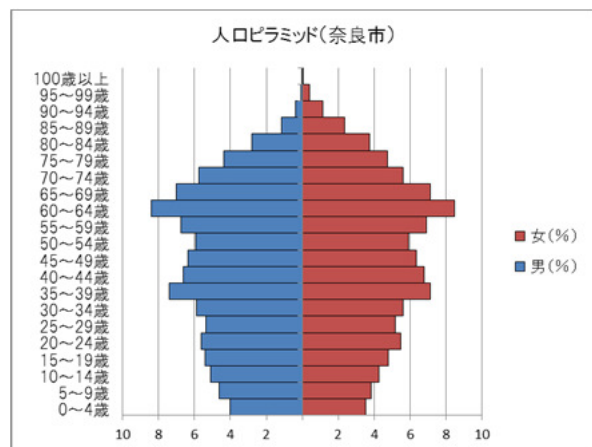
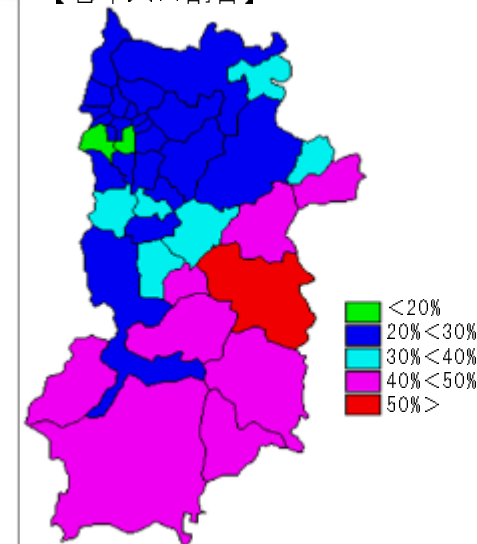


奈良県の地域毎の人口構成の状況

- 県の人口構成は60才前後の世代がピーク。15歳未満は減少。2030年には典型的な高齢社会に。
- 北部では60歳前後世代がピークであるものの、40歳前の世代も一定存在。
- 南部の市町村では高齢化が著しく進んでおり、例えば川上村では既に高齢化率が50%を超えている状況。



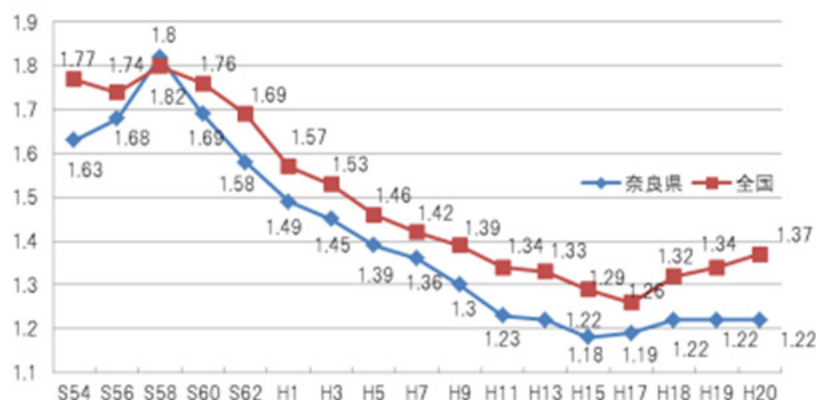
【老年人口割合】



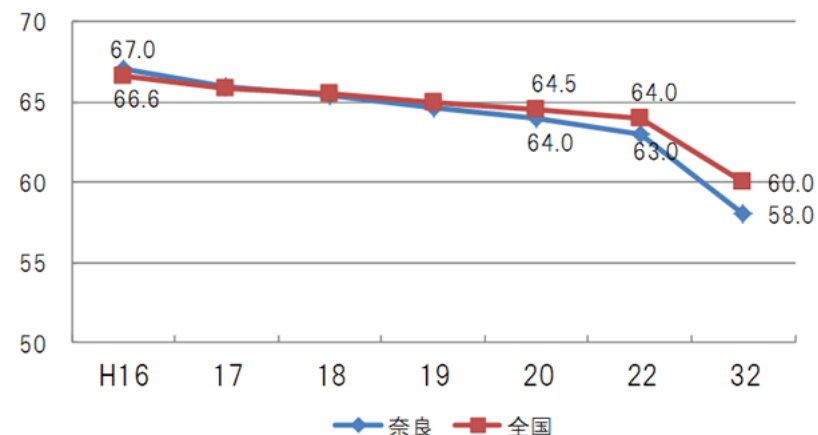
人口・世帯に係るその他の指標

- 奈良県の平成24年の合計特殊出生率は1.32(全国は1.41)と非常に低く、出生数自体も平成10年に比べて大幅に減少
- 生産年齢人口割合も全国比より低く、転出者超の状態も10年以上続いていることから、他の都道府県に比べて少子・高齢化の進捗が著しく拡大することが予想

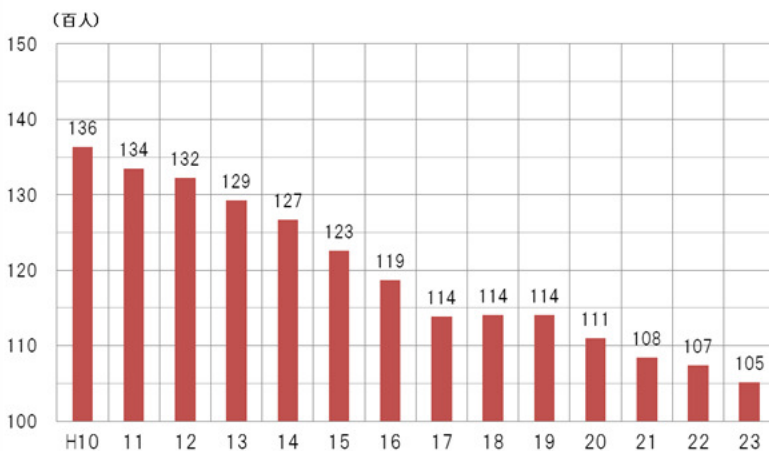
【合計特殊出生率(奈良県・全国)】



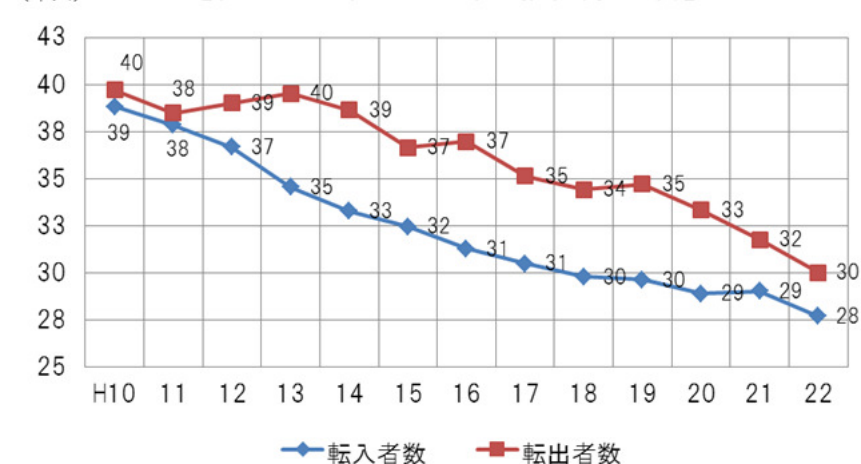
【生産年齢 人口割合 全国比較】



【出生数年別推移(奈良県)】



【転入者数・転出者数年別推移(奈良県)】

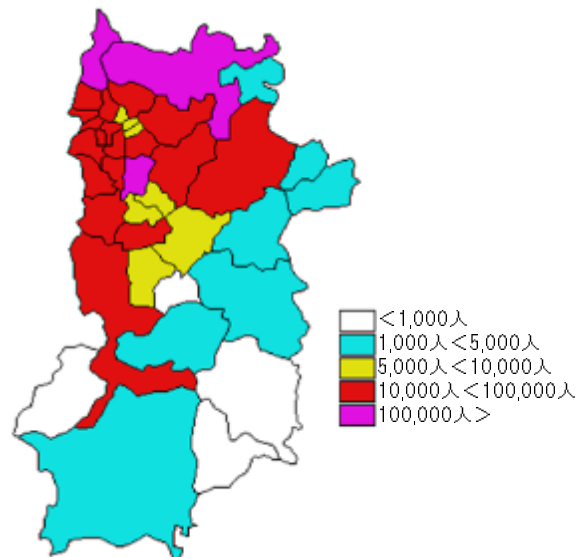


人口・世帯に係る地域別状況

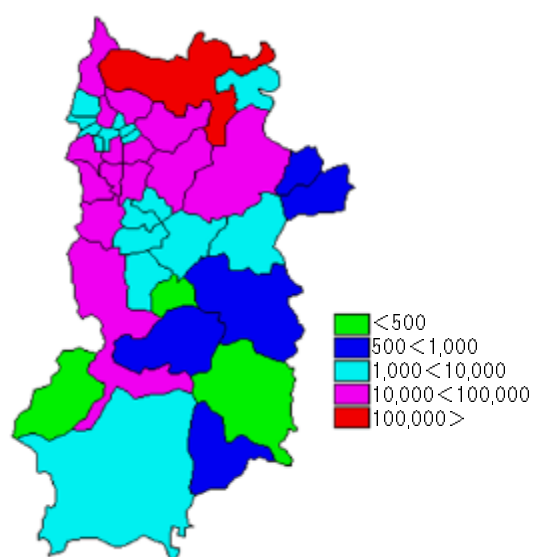
○人口、世帯は北部に集中。南部でも野迫川村や上北山村などは特に少ない状況

○年齢等も概ね同様の傾向がある一方、香芝市など人口増加率が高く若年世帯が多い地域も存在

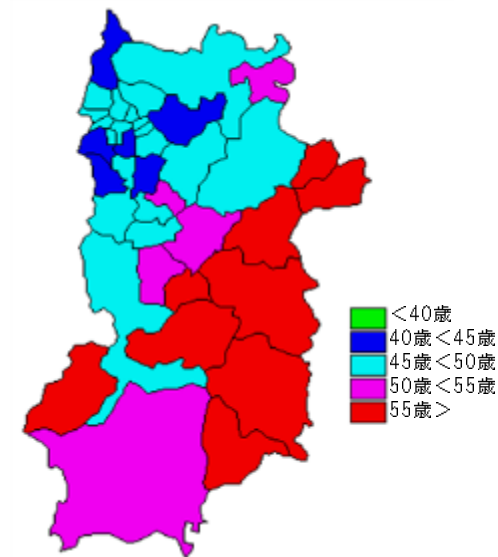
【総人口】



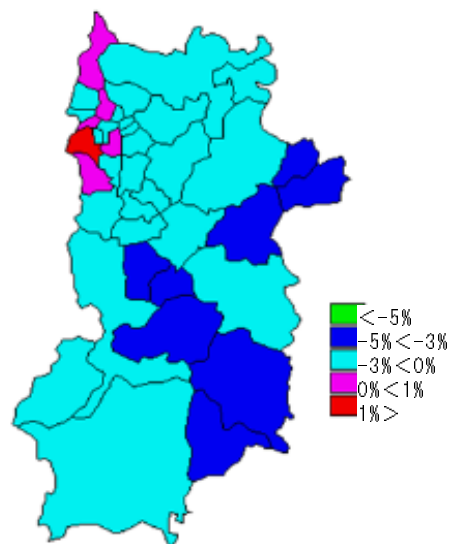
【総世帯】



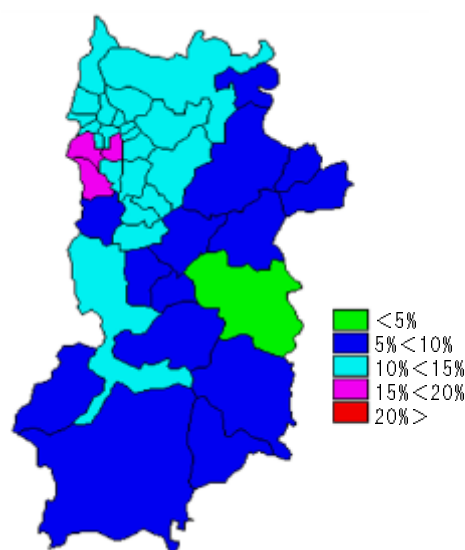
【平均年齢】



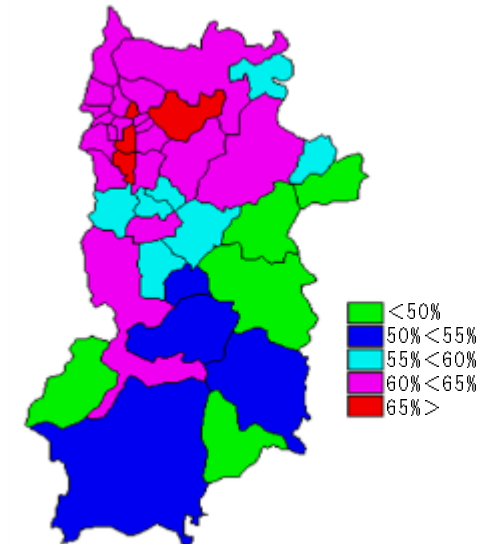
【人口増加率】



【年少人口割合】

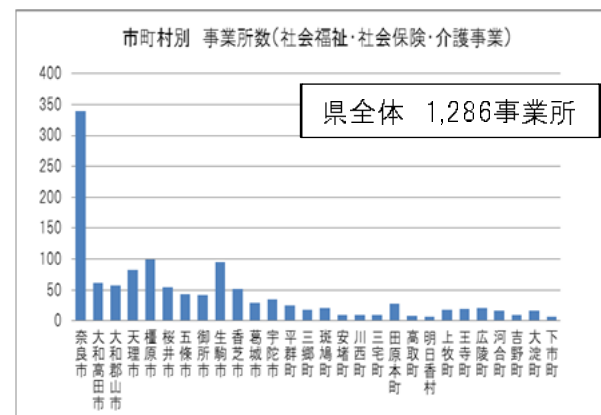
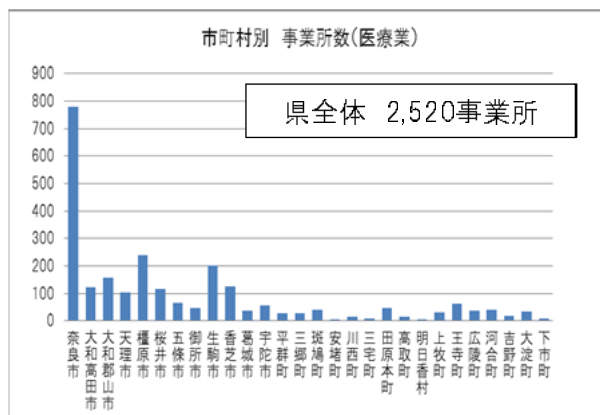
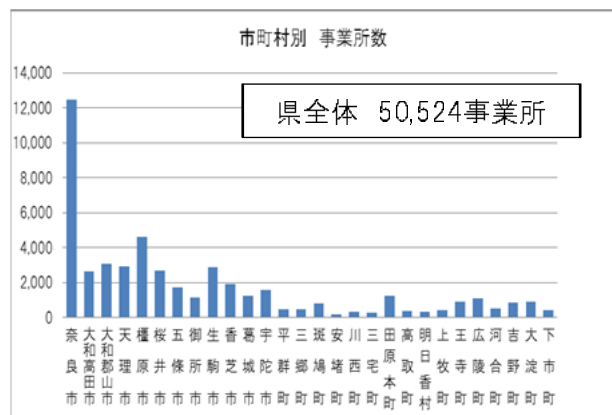


【生産年齢人口割合】

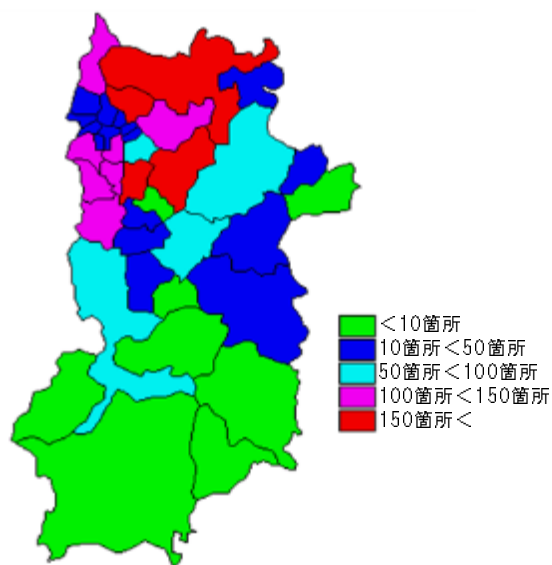


地域別の事業所に係る状況

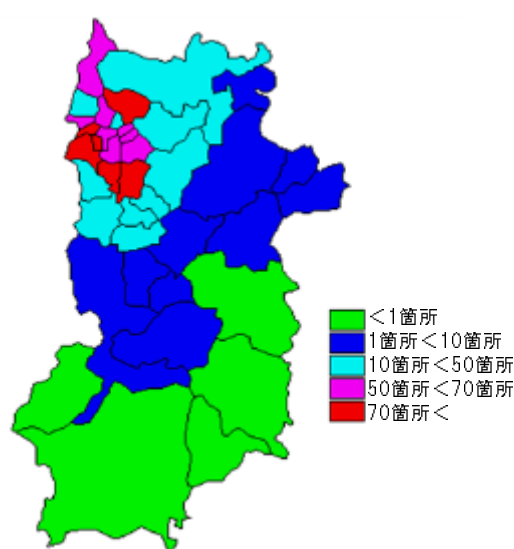
- 県内の事業所は北部に集中する傾向。特に民営事業所は香芝市周辺にも集中して立地。
- 橿原市等で医療系、社会福祉系の事業所の割合が小さい傾向がある一方、生駒市等では医療系等の割合が高い。天理市等では社会福祉系のみ割合が高くなっている。
- 卸・小売事業所でも概ね北部に集中する傾向があるなか、五條市では全体に比して多い。



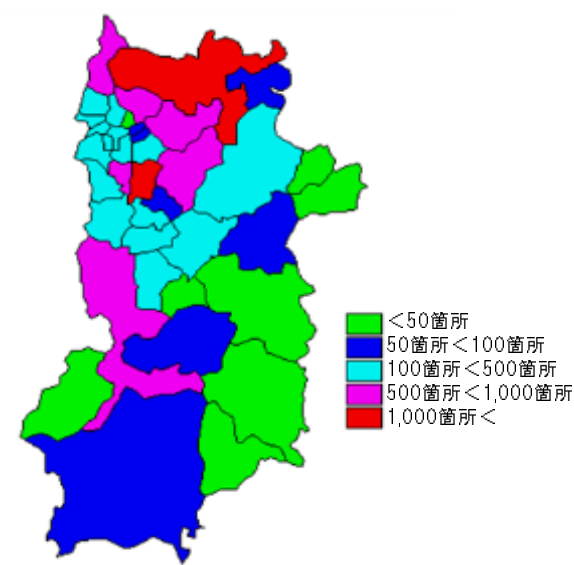
【製造業事業所数】



【民営事業所数】



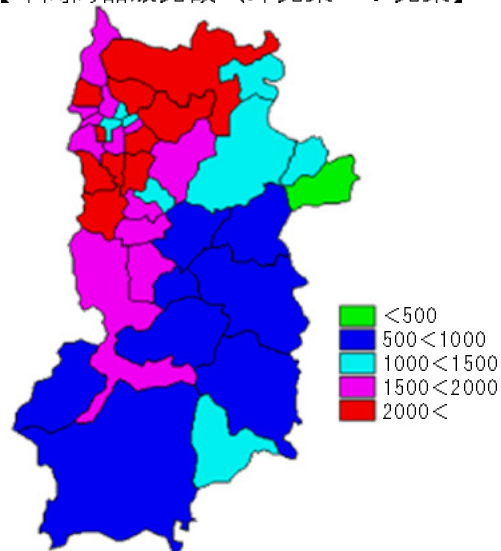
【卸・小売業事業所数】



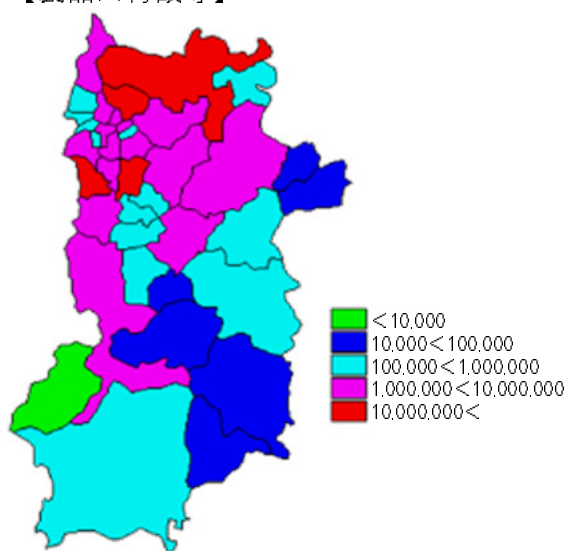
地域別の産業構造等に係る状況

○販売額、出荷額は人口等と同様に北部に集中。一方で、人口数等に関わらず就業率は野迫川村等
で高い状況。産業構造は1～3次産業にしたがい概ね南部から北部に集中度合いが移動。

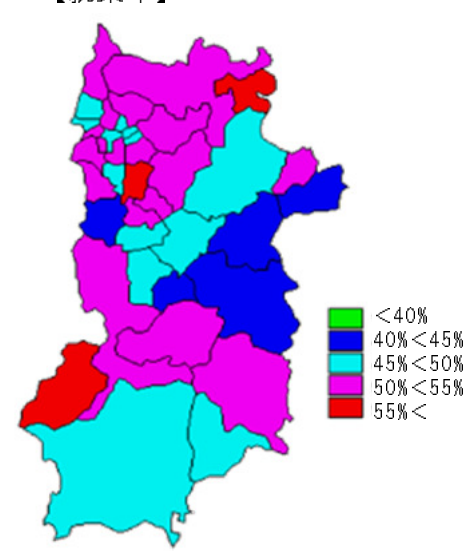
【年間商品販売額（卸売業・小売業）】



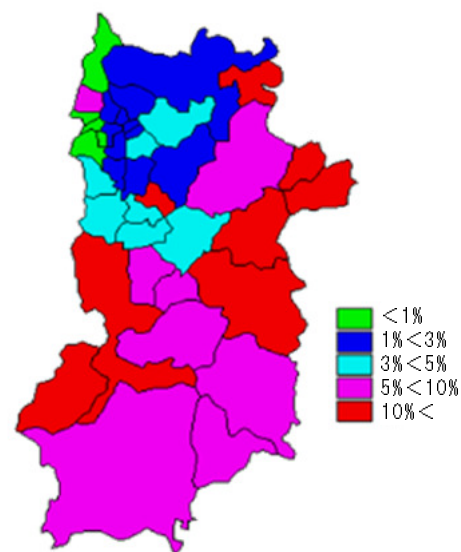
【製品出荷額等】



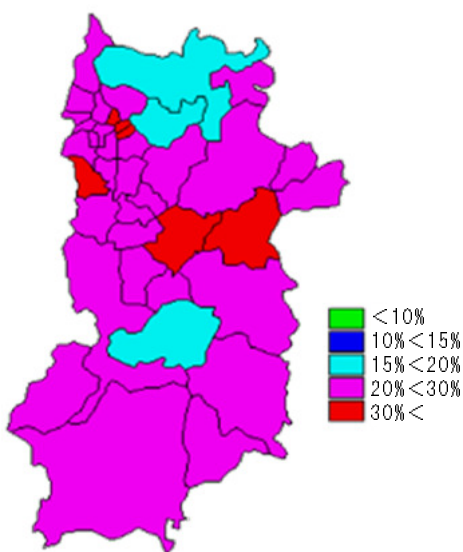
【就業率】



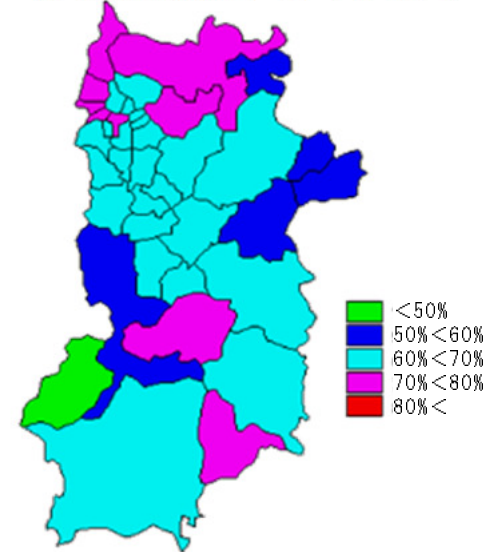
【産業別就業構造（第1次産業）】



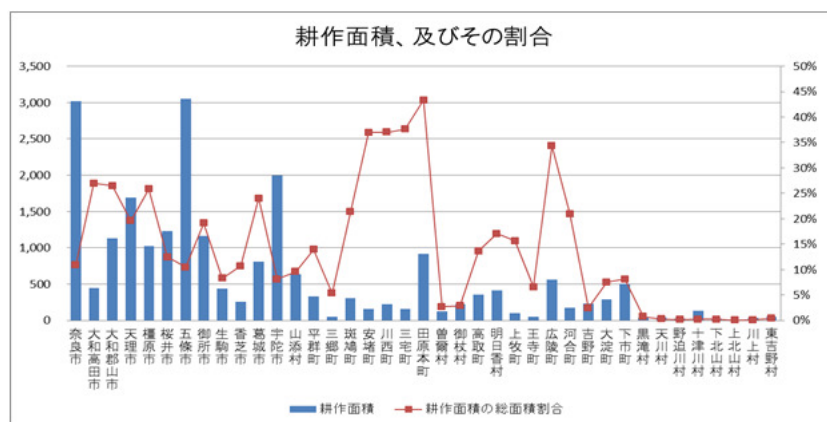
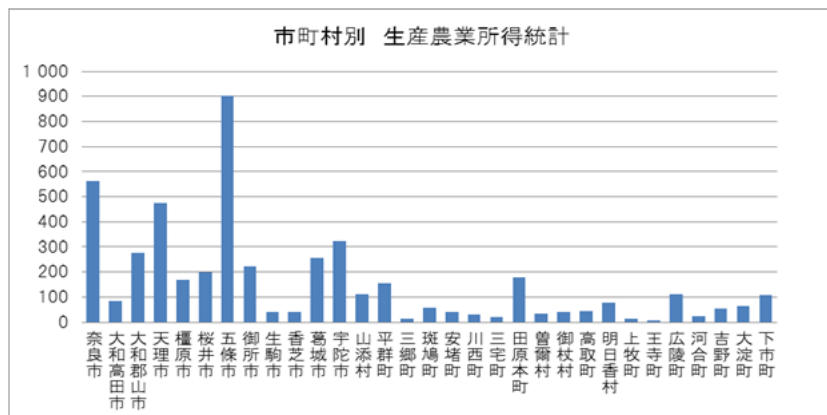
【産業別就業構造（第2次産業）】



【産業別就業構造（第3次産業）】

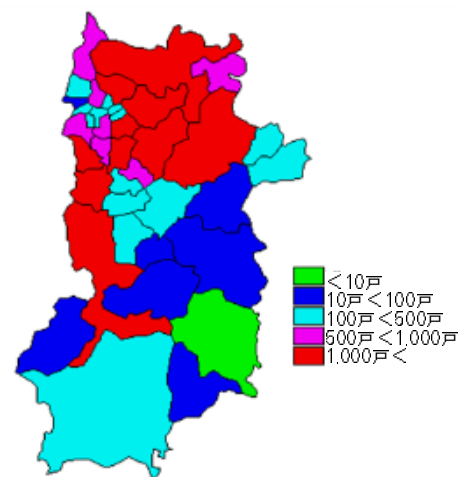


農業・林業に係る地域別状況

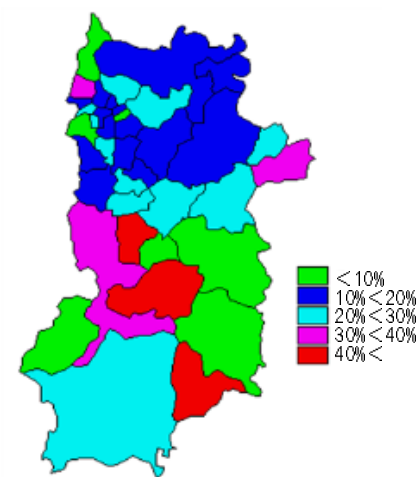


- 総農家数等は人口等と同様に北部に集中する傾向があるものの専業農家割合は南部の方が高い
- 耕作面積は中部でその割合が高く、南部では林業への依存が高い

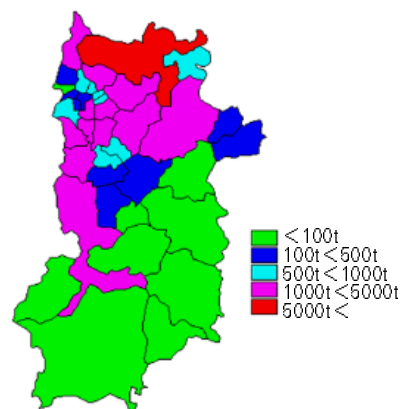
【総農家数】



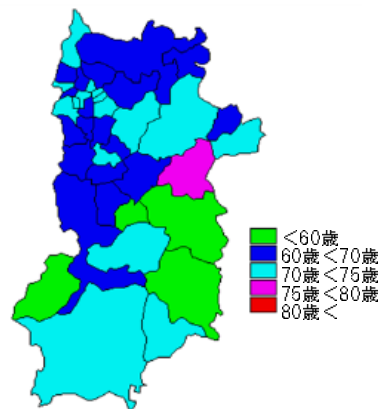
【専業農家割合（販売農家）】



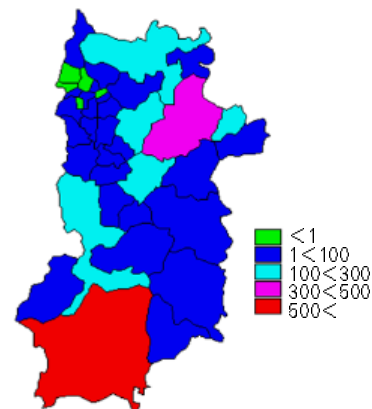
【水稻収穫量】



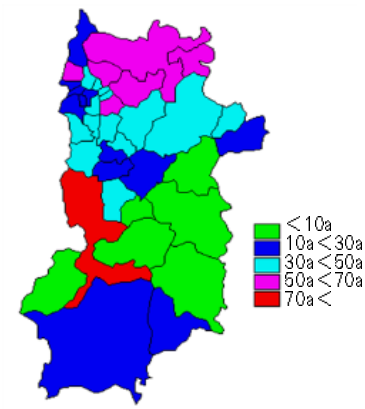
【農業従事者の平均年齢】



【林業経営対数】

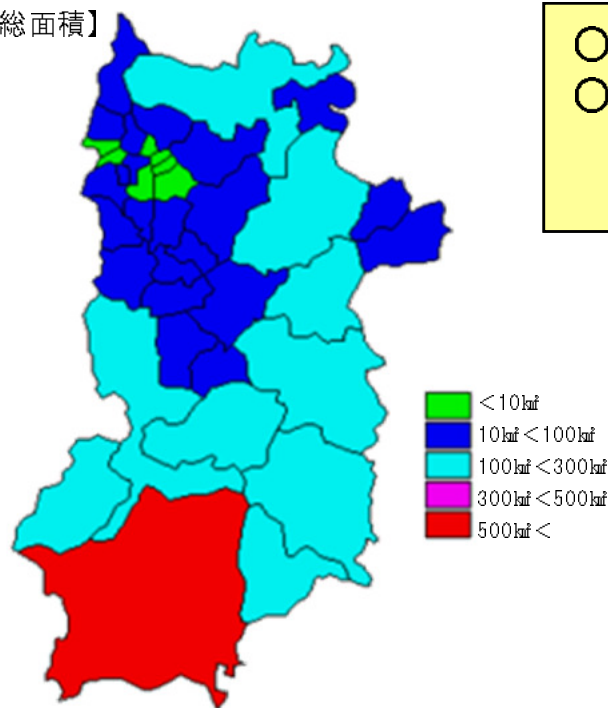


【経営耕地面積】

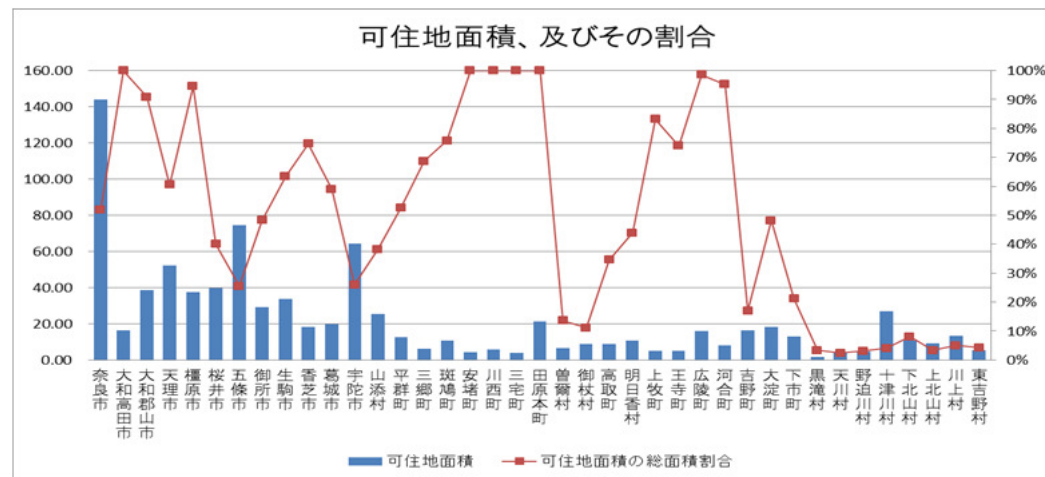


土地利用に係る状況

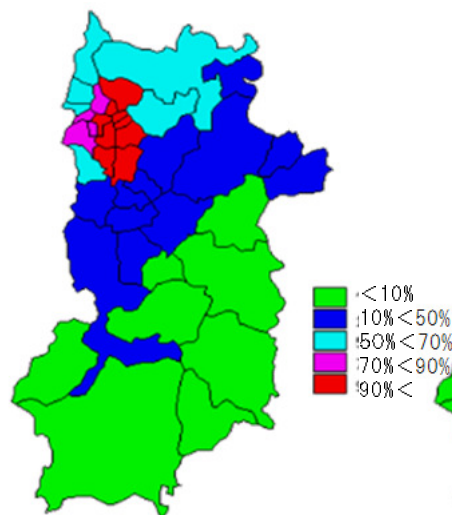
【総面積】



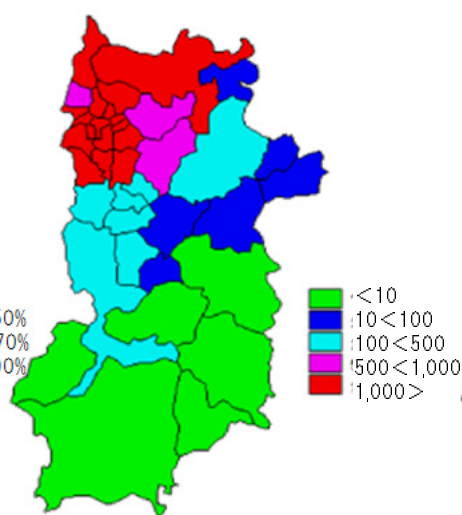
○宅地面積は北部、林野面積は南部にそれぞれ集中する傾向
○可住地に関しては、北部の小規模市町村でその面積割合が100%に近くなる一方で、南部では一定規模の可住地がありながら面積割合は小さい傾向



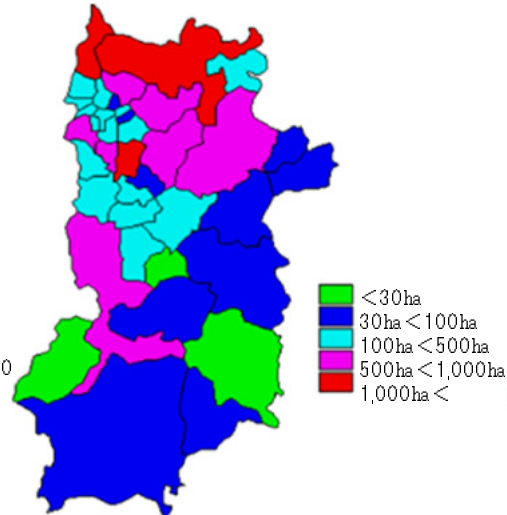
【可住地面積割合】



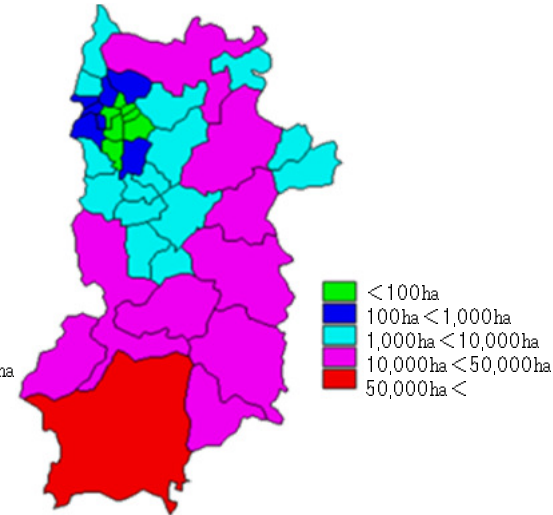
【人口密度】



【宅地面積】



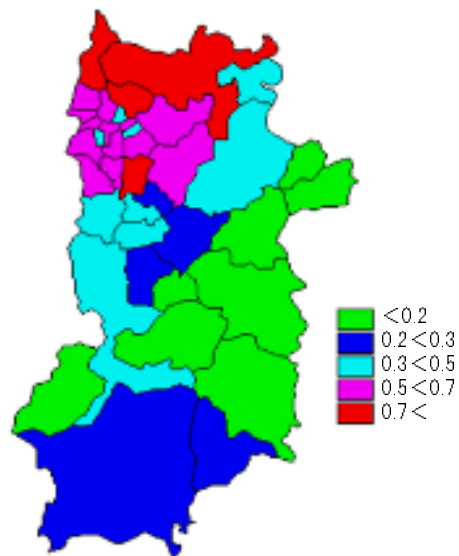
【林野面積】



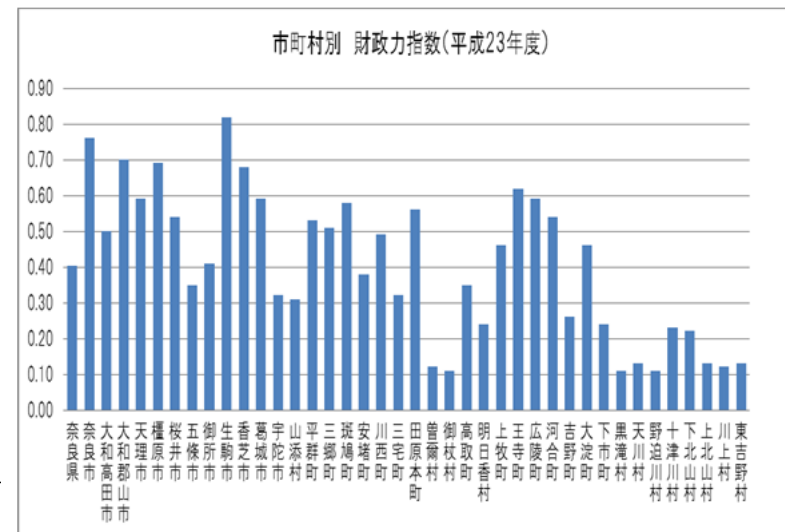
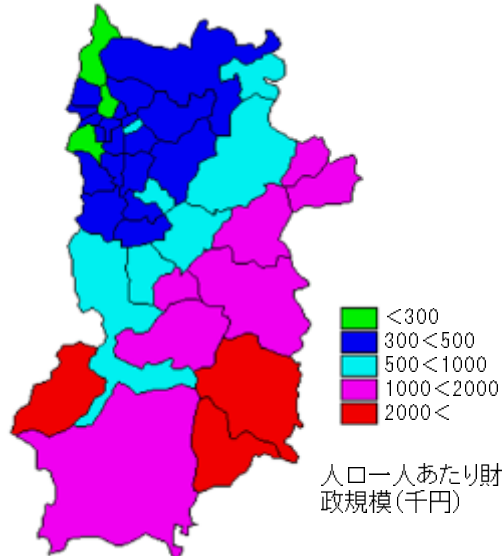
市町村の財政その他の状況

- 財政等に関するデータは、概ね人口・世帯と同様に北部に集中する傾向
- 小学校・中学校の児童・生徒数も同様の傾向

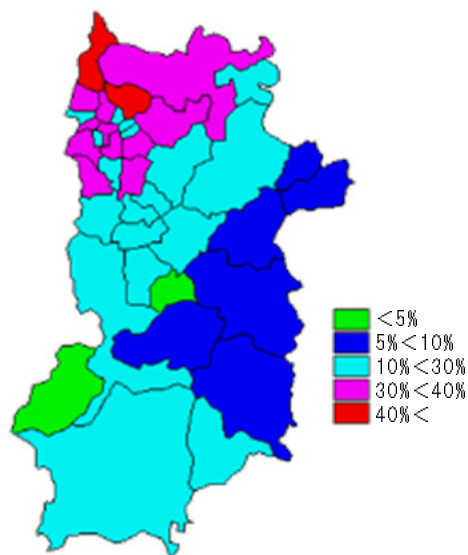
【財政力指数】



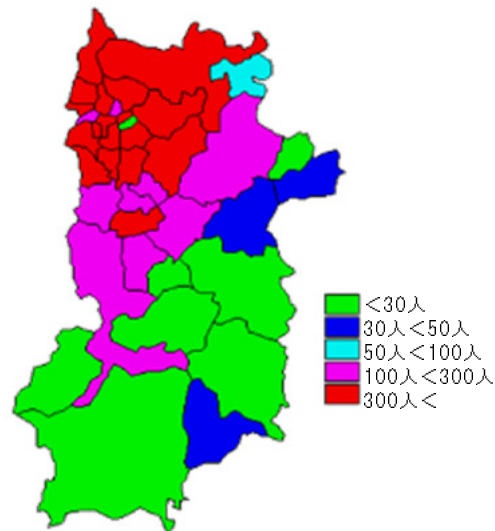
【財政規模】



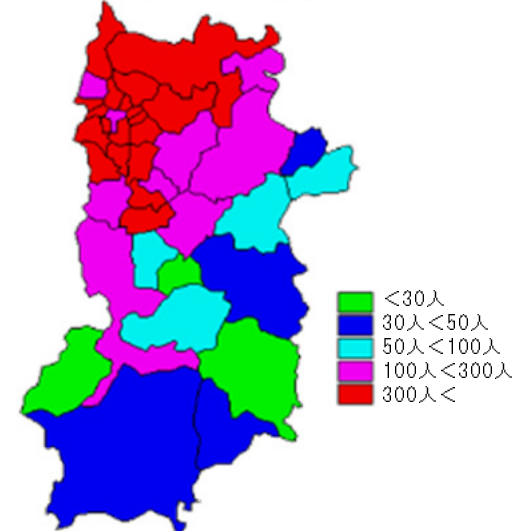
【市町村税比率】



【中学校生徒数】



【小学校児童数】



住宅ストックに係る状況

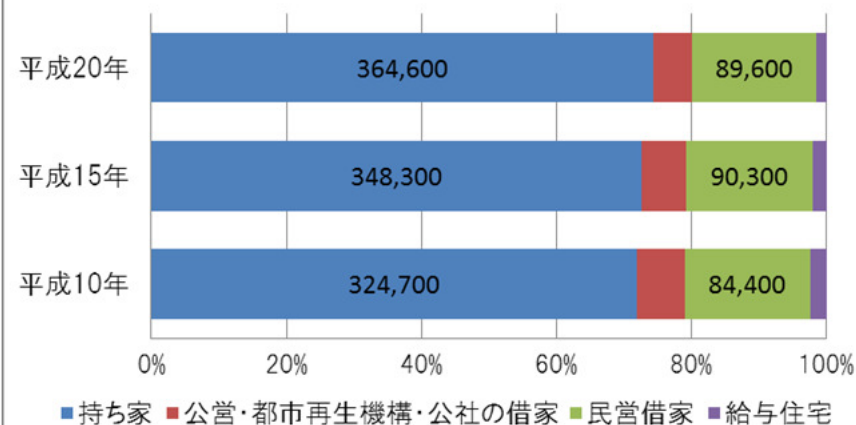
○人口及び世帯が減少する中、住宅は増加。

○住宅が増加する中、空き家が急増、特に賃貸用空き家とその他空き家の増加が顕著

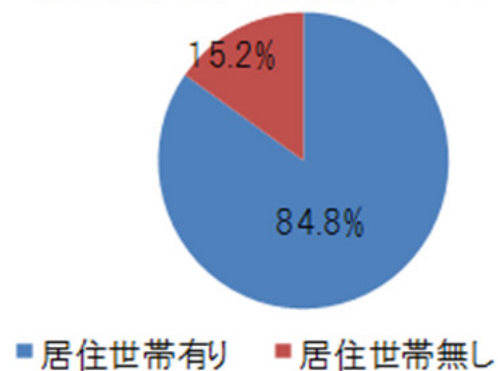
【人口・世帯と住宅数の推移(奈良県)】



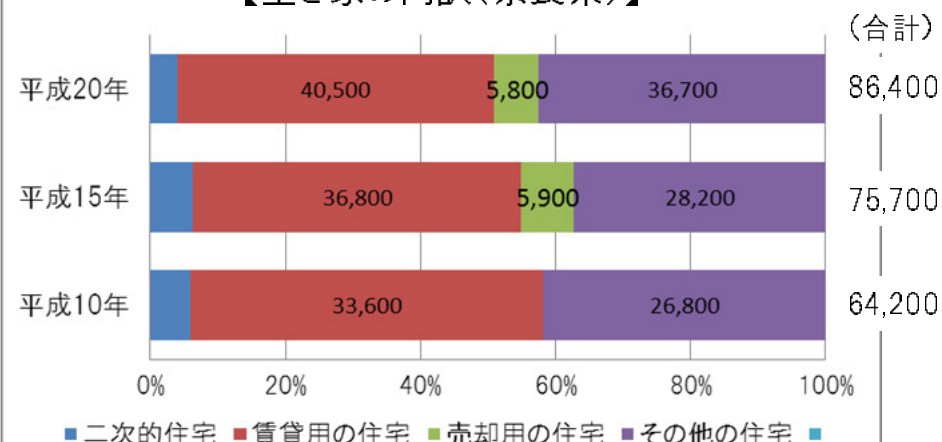
【所有関係別住宅数(奈良県)】



【居住世帯の有無(奈良県)】

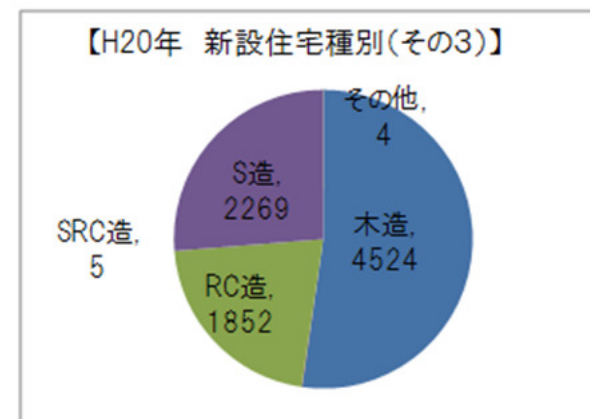
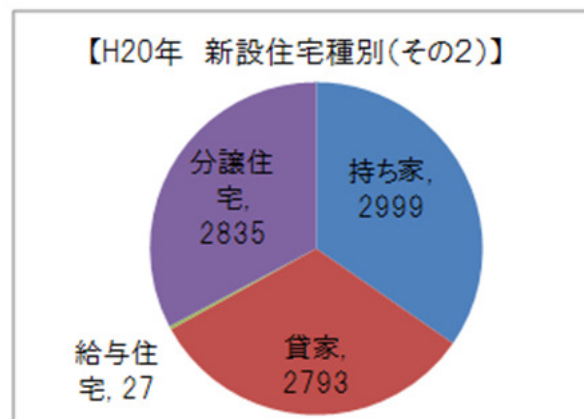
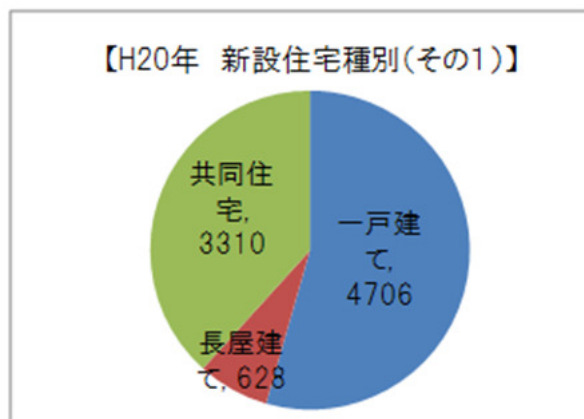
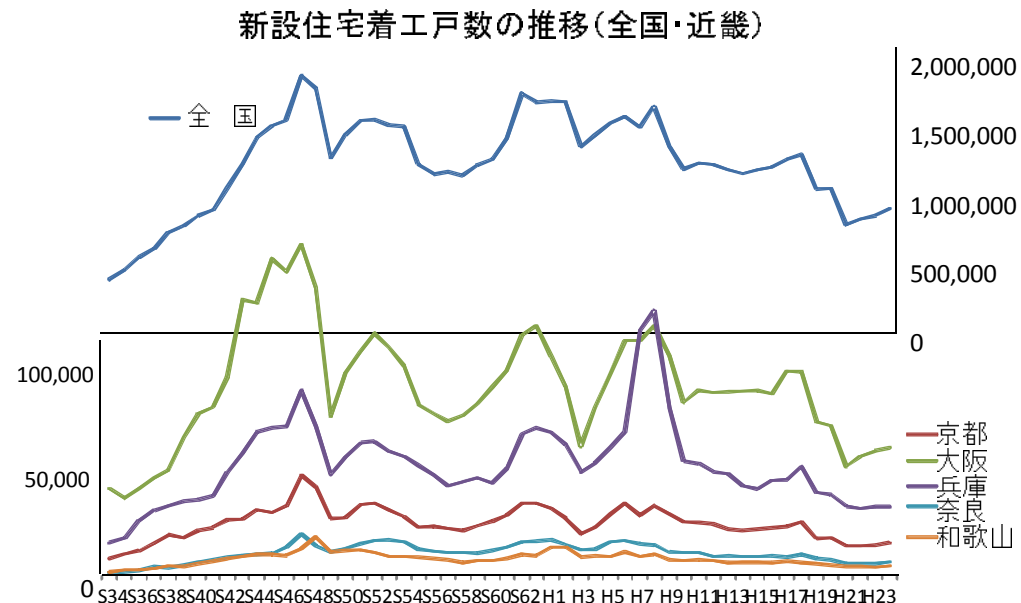
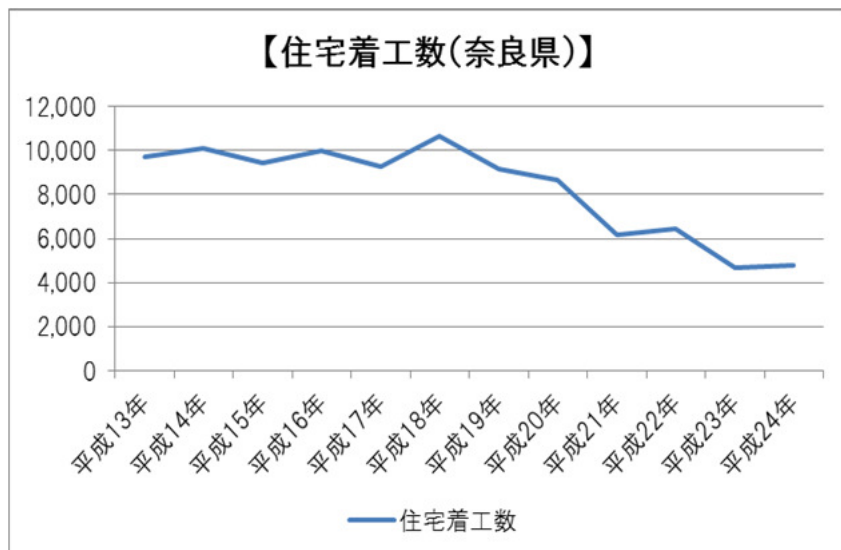


【空き家の内訳(奈良県)】



住宅建設に係る状況

- 住宅着工件数は年々減少傾向にある。
- 奈良県では一戸建てが多い傾向にある。

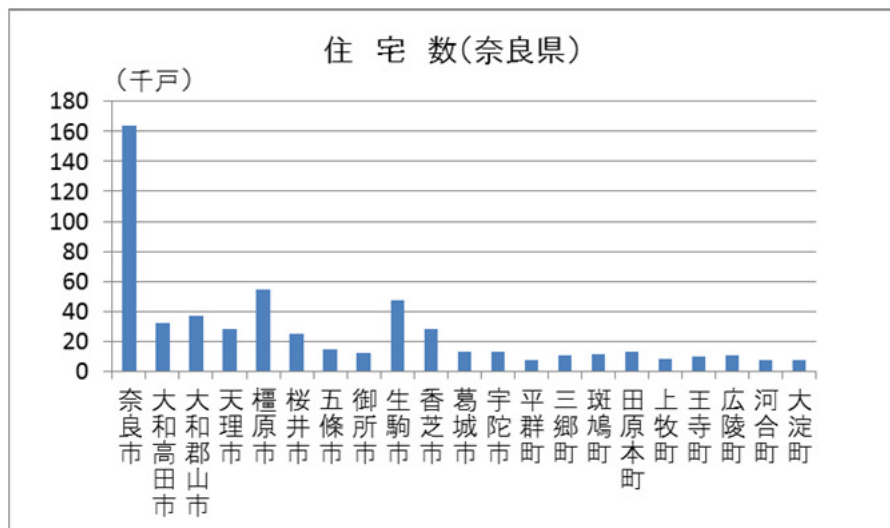


住宅ストックに係る状況（市町村別）

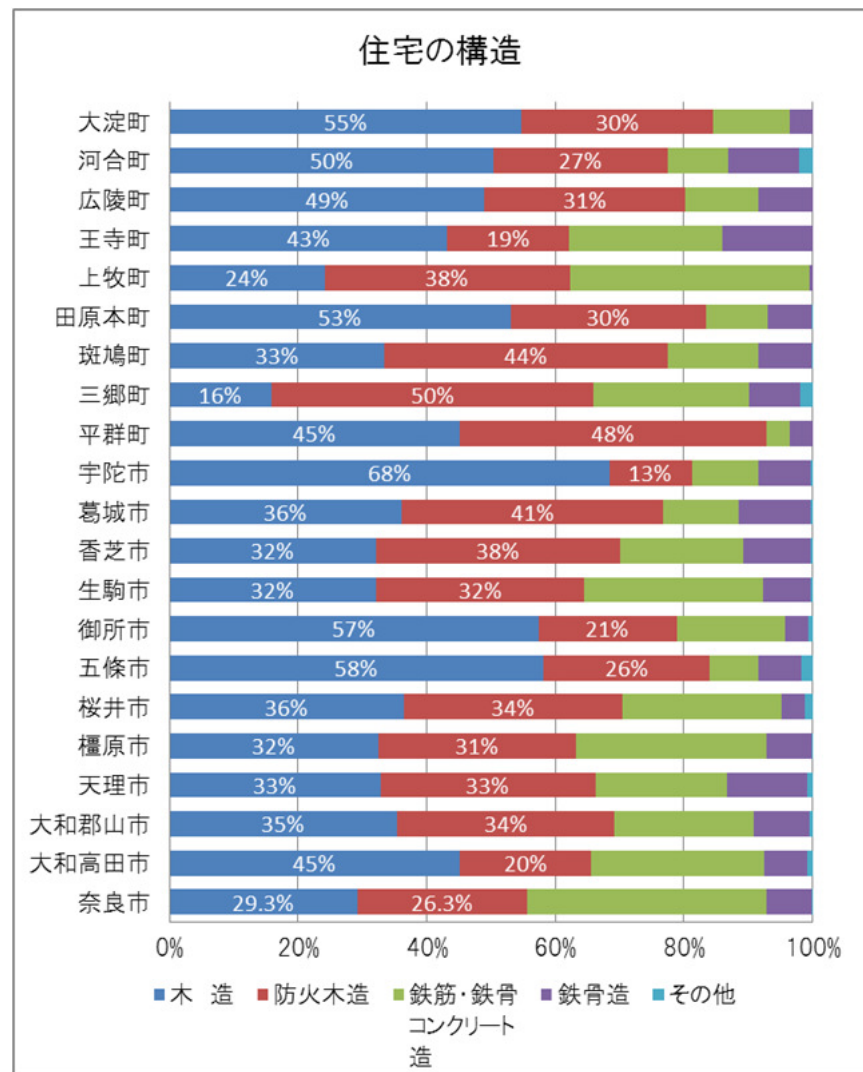
○住宅数では、奈良市が群を抜いて多い。

○構造別では、木造・防火木造が多い。 ○空き家率では五條市、大和高田市、御所市が多い。

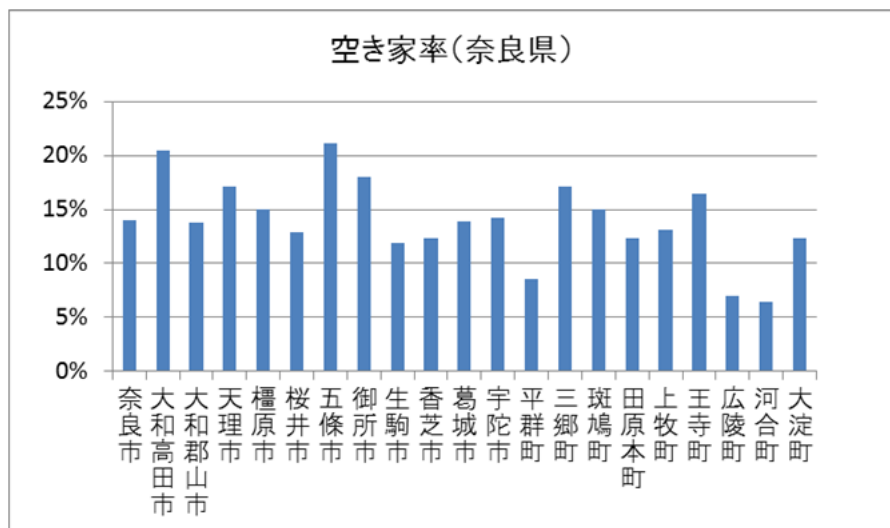
(1) 住宅総数



(2) 構造別住宅数



(3) 空き家率

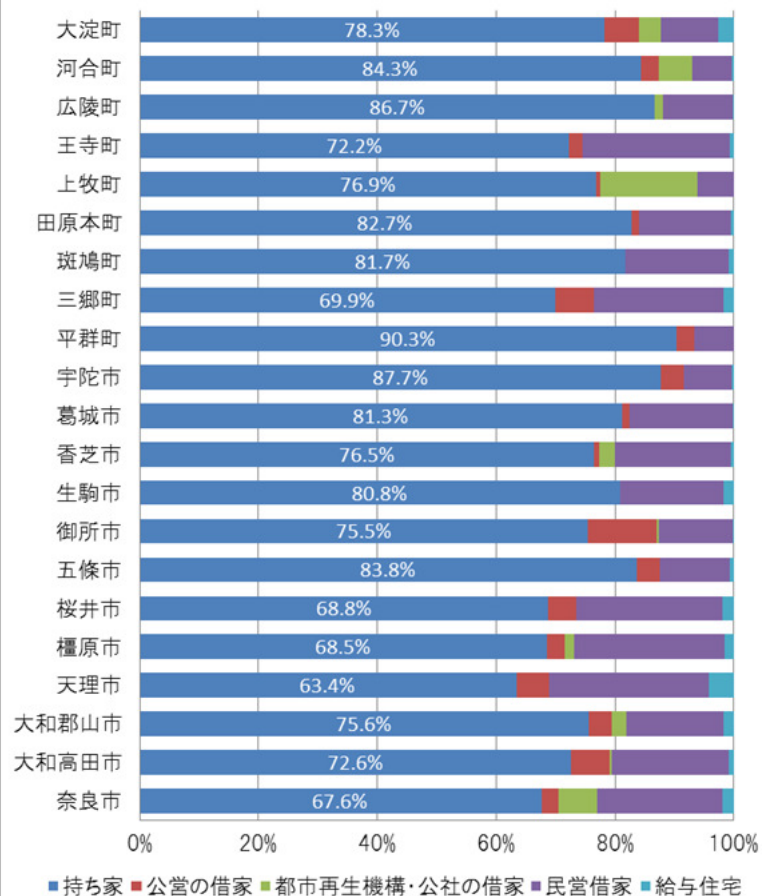


住宅に係る状況（市町村別）

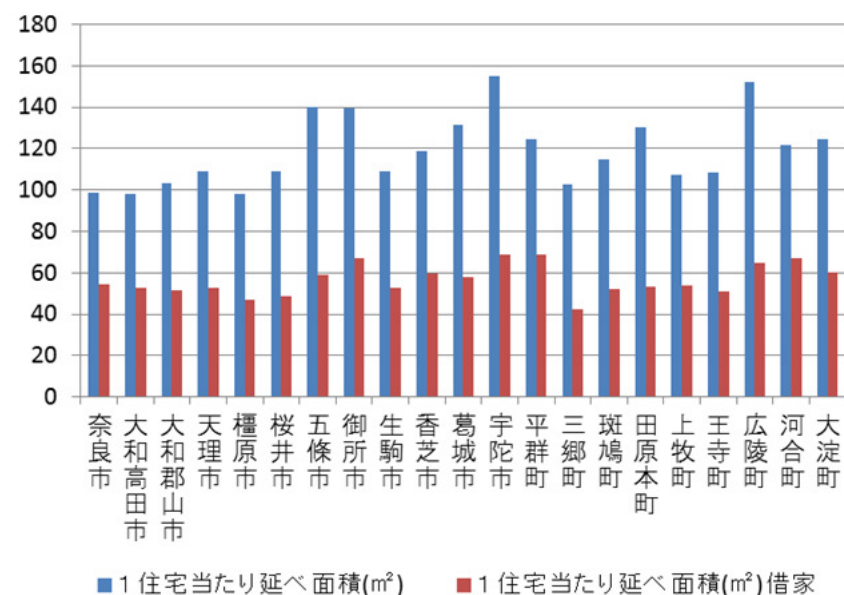
○所有関係別では、持ち家率が70%～80%と高い

○一住宅当たりの延べ床面積では、持ち家は高い水準だが、借家は低い。

専用住宅 所有関係別割合



一住宅当たり延べ床面積(㎡)



住宅建設に係る状況（市町村別）

平成24年度の市町村別住宅着工戸数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
奈良市	94	147	157	123	152	157	225	146	128	165	133	125
大和高田市	9	19	8	37	9	13	20	61	9	26	17	8
大和郡山市	30	144	29	23	33	36	25	32	41	141	30	116
天理市	15	12	25	31	69	27	35	18	22	32	17	39
橿原市	67	37	42	45	18	46	74	29	44	60	22	62
桜井市	12	10	32	25	38	28	26	17	20	13	13	9
五條市	5	3	1	10	7	2	4	3	1	2	2	6
御所市	4	4	4	2	2	10	5	-	4	1	2	2
生駒市	270	44	26	58	57	20	62	29	275	74	35	31
香芝市	15	38	74	38	51	37	21	82	39	32	35	29
葛城市	19	21	13	14	34	15	6	17	26	20	20	18
宇陀市	3	5	6	4	8	5	9	-	4	2	5	4
山添村	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
平群町	10	13	4	5	2	5	9	3	4	1	8	8
三郷町	18	2	4	5	9	9	23	11	8	8	14	16
斑鳩町	24	6	8	14	22	5	12	5	13	14	12	5
安堵町	4	-	1	3	5	1	-	2	-	2	6	3
川西町	2	6	4	2	2	1	4	4	6	1	6	1
三宅町	2	1	3	2	1	1	-	2	1	11	6	1
田原本町	22	18	11	12	10	15	14	13	11	8	11	25
曾爾村	-	1	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
御杖村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高取町	-	1	3	6	2	-	4	-	1	3	3	2
明日香村	-	1	1	1	1	-	1	-	1	1	-	-
上牧町	11	2	3	5	5	1	5	4	5	-	7	3
王寺町	23	18	15	12	12	27	10	15	14	4	19	18
広陵町	38	17	29	28	10	15	11	9	17	23	10	17
河合町	7	4	7	2	1	8	3	2	10	3	2	3
吉野町	2	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-
大淀町	2	3	5	4	2	3	14	4	8	6	2	3
下市町	-	-	2	1	-	-	-	-	3	-	-	1
黒滝村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
天川村	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
野迫川村	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
十津川村	-	-	-	-	-	-	-	1	10	-	-	4
下北山村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上北山村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川上村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東吉野村	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	709	579	519	518	566	487	622	511	726	654	437	559

○着工戸数は奈良市、生駒市が多いが、大和郡山市等が生駒市を上回る月も存在

○王寺町、田原本町、斑鳩町等は、毎月一定の着工戸数が着実にある状況

着工戸数の多い20市町

1	奈良市	1752
2	生駒市	981
3	大和郡山市	680
4	橿原市	546
5	香芝市	491
6	天理市	342
7	桜井市	243
8	大和高田市	236
9	広陵町	224
10	葛城市	223
11	王寺町	187
12	田原本町	170
13	斑鳩町	140
14	三郷町	127
15	平群町	72
16	大淀町	56
17	宇陀市	55
18	河合町	52
19	上牧町	51
20	五條市	46